

若手職員が活躍する事業現場の紹介

R1-3 胆振総合振興局 室蘭建設管理部 苫小牧出張所

室蘭建設管理部
苫小牧出張所管内
苫小牧市



苫小牧出張所庁舎 (昭和43年築造)



苫小牧港西港区



○工事名

～ 道道 苫小牧中央インター線 (仮称) 改良工事～

○事業概要

箇所名:北海道苫小牧市
延長・L=2.14km、幅員・W=14.5m
事業期間:平成29年度～令和2年度
全体事業費=約30億円
事業内容:土工(切土)V=約50万m³、道路工L=2.14km、
函渠工N=3

○事業目的と効果

苫小牧市中心部(苫小牧港)へのアクセス強化により北海道経済の活性化、東胆振・日高地域から2次救急医療機関への迅速な輸送経路の確保、大規模災害時における代替性の確保。



○施工状況写真



平成31年3月撮影



完成イメージ

一言コメント

私は、C区分採用(中途採用)で30歳を過ぎてから入庁しました。入庁時、土木工事の経験がないため仕事を進めるうえで不安がありました。職場の先輩方や上司の熱い指導やフォローがあり安心して仕事を行えました。また入庁時、幼い子供がいる時期に道外から移住したため生活面なども心配でしたが、職員住宅に住むことができ先輩方も近くに住んでおり、病院のことなど生活面について教えていただき困ることはありませんでした。

今現在、私は道路担当として苫小牧中央インター線(仮称)改良工事を担当しております。土木の仕事は私たちの生活に直接関わっているものが多く、自分が担当した道路や構造物が完成し、担当した道路や構造物を通るとき達成感とやりがいを感じます。

(同時に失敗した苦い思い出も蘇ります、次につなげる良い経験として。) この短い北海道職員生活の中で最も印象に残る出来事は、平成30年9月6日に発生した胆振東部地震です。当出張所管内で地震が発生し管轄の道路・河川が被災をうけ、一日も早く復旧させるため昼夜なく働きました。現在も復旧工事は続いておりますが、復旧の初動対応・災害査定に携われたことは技術職員として大きな財産になりました。

北海道ではやりがいのある仕事皆さんを待っています。ぜひ私たちと一緒に北海道で働きませんか。



胆振東部地震による災害応援に来てくださった方々と(すべての写真を掲載できず、すみません!)



入庁4年目主任 八木沢 清史



災害査定打ち上げ



苫小牧出張所内道路係の様子 (災害対応時)
(平成31年4月現在、北海道外からの災害応援者を含め53名体制)



第15次災害査定 (11月26日～30日) 実施査定時